



マイコプラズマ肺炎について

☆マイコプラズマ肺炎とは？

肺炎マイコプラズマの感染によって発症する肺炎です。頑固な咳と発熱を主症状に発病し、中耳炎や無菌性髄膜炎、脳炎などの合併症も報告されています。1年中見られる感染症ですが、日本では秋の終わりから春にかけて多く報告されています。幼児から大人まで感染することがありますが、特に6～12歳の小児に発生頻度の高い感染症の一つです。

☆どうやって感染するの？

感染した人の鼻汁、咳やくしゃみなどが、鼻の粘膜や口から体に入る**飛沫感染**と、感染した人と濃厚に接触したときに体に入る**接触感染**によって感染します。潜伏期間は、感染から2～3週間です。



☆症状は？

- ・はじめは、発熱、頭痛、全身がだるくなるなどの症状が現れます。
 - ・上記の症状が現れてから3～5日後に咳が見られます。
 - ・最初は乾いたような咳ですが、徐々に強くなり、湿った咳になることもあります。また、熱が下がった後も咳は長く続きます（3～4週間）。
 - ・幼児では鼻炎症状がみられることもあります。
 - ・その他、声がかれる、耳痛、咽頭痛、胸痛、消化器症状が見られることもあります。
- * 合併症として中耳炎、無菌性髄膜炎、脳炎、肝炎、溶血性貧血、関節炎などがあり、注意が必要です。**



☆治療方法は？

マクロライド系やテトラサイクリン系、ニューキノロン系の抗生物質や抗菌薬が用いられます。

☆予防方法は？

- ・こまめに**手洗い**、**うがい**をしましょう。また、特に流行しているときは**マスク**を着用して外出しましょう。
- ・**感染している人との接触は、できるだけ避けましょう。**



☆登園・登校は？

- ・急性期が過ぎて症状が改善し、全身の状態が良い場合は登園・登校可能となっています。患者本人の状態によりますので、医師に相談して下さい。

* 参考資料：感染症情報センター（IDSC）/厚生労働省・感染症情報

あすか薬局 H23.11.8